

目に見えないもの

大津 隆文

暮れから正月にシンガポールの次女一家が来宅した。孫のシャーロットは10歳、随分大きくなった。丁度クリスマスの時期だったのでサンタさんからのプレゼントが最大の関心事。友達からサンタクロースは本当はお父さんかお母さんだよと言われ、それ本当？と尋ねたりもしたが、まだサンタさんを信じているらしかった。

「サンタっていないんじゃないの？」との子供にどう答えるか。有名なのは1897年ニューヨークの新聞『ザ・サン』が8歳の女の子の質問に出した答え『世の中には愛情や寛容のように、目には見えないけれど存在するものはある、サンタはいるんだよ』だという。(2025・12・24日本経済新聞「あすへの話題」佐倉統氏)

成る程と思った。私は毎週一回気功教室に通って10年余りになるが、いまだ「気」の存在が実感出来ない。教室の仲間には、「気」のお蔭で悪性リンパ腫が小さくなったり、肺癌手術後余命3年と言われたのに10年以上元気に過ごしている例もある。他方熱心に練習に励んでいた人が癌で亡くなったり、腰痛が良くならないまま退会する例もあり、私は正直半信半疑の状態だ。

日常的に元気、気力、勇氣、気落ち等「気」を含む言葉は多いが「気」は目には見えない。目に見えないものの存在について懐疑的だったが、むしろその存在を前提にして体感、さらには体得に努めるべきかも、と思った。

最近家内は麻雀教室に通い出した。帰宅した彼女にその日の結果を尋ねると「今日はツイていて大勝ちした」とか「全くツキがなくてぼろ負けだったとか、「ツキ」で説明されることが多い。「ツキ」というのも目に見えないが、ツイたりツキなかったりする現象はたしかにある。ではその獲得、活用は可能であろうか。

目に見えないものについては、古来運と呼ばれる世界がある。「運」を支配するのは「天」で「運は天に任す」、というのが長い歴史の中で人々が辿り着いた智慧、答えなのだろう。皆様、グッド・ラック！